

現場で使える！研究成果

着房枝4月切り返し
開花調整と寒害回避

ビワ「なつたより」

ビワ「なつたより」は果実が大きく食味に優れた品種だが、近年、温暖



摘房する結果枝の切り返し
(点線部分で切除)

化の影響により開花期が前進化し、早花果が多くなることで寒害を受けやすく生産が不安定になっている。

そこで袋掛け前に奇形果や病害虫被害果などの不要な果房を摘房する際、着房枝を切り返して、開花期の生育ステージを適正に調整する方法について検討した。その結果、4月下旬ま

表 着房枝の切り返しが花房進度、着房率および結果枝長に及ぼす影響

処理方法	切り返し時期 (月日)	着房率 (%)	花房進度	結果枝長 (cm)
果房直下の2~3葉を 含めて切り返し	4/5	100.0	2.9	17.6
	4/28	86.7	1.8	11.3
	5/27	0.0	-	10.5
	6/17	0.0	-	7.5
収穫時に果房のみ採取 (対照)	5/20	93.3	3.6	34.6

※全項目2019年10月30日に調査

※花房進度とは花の生育ステージを9段階に区分した指標で、数値が大きいほどステージが早いことを示す

次に果房直下の2~3葉を含め切り返すことで、
古賀敬一)

次年度に利用する花房の進度(開花の生育ステージ)は、収穫時に果房のみ採取した場合と比べ1~2段階程度遅くなり、開花期の前進化を抑制できることが明らかになった。また、次年度の結果枝の長さは果房のみ採取した場合の2分の1~3分の1程度短くなった。なお、花芽分化を促進させるためには、7月末までに誘引して樹体の日当たりを良くして、充実した結果枝に育成する必要がある。

(農林技術開発センター 果樹・茶研究部門)